

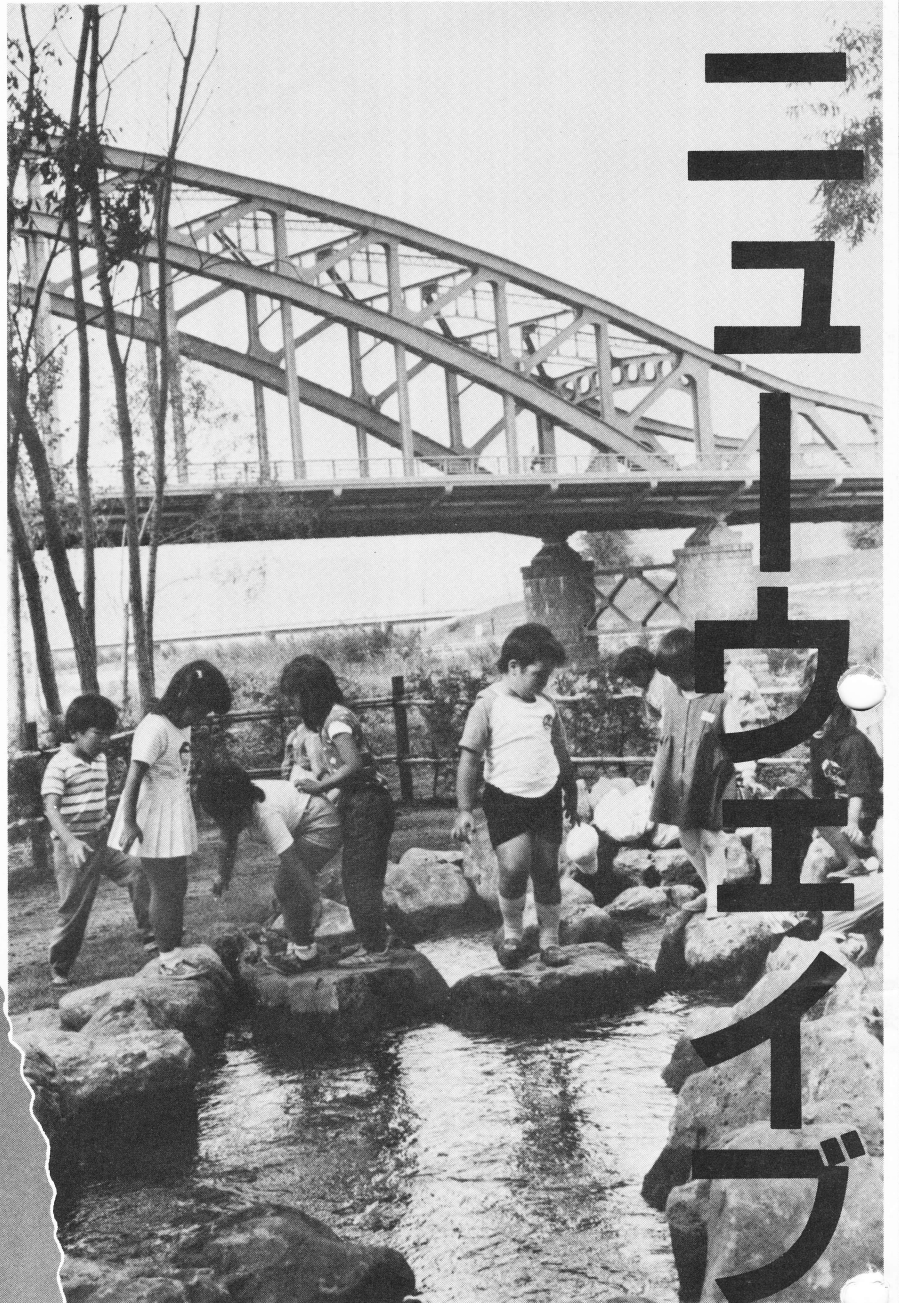
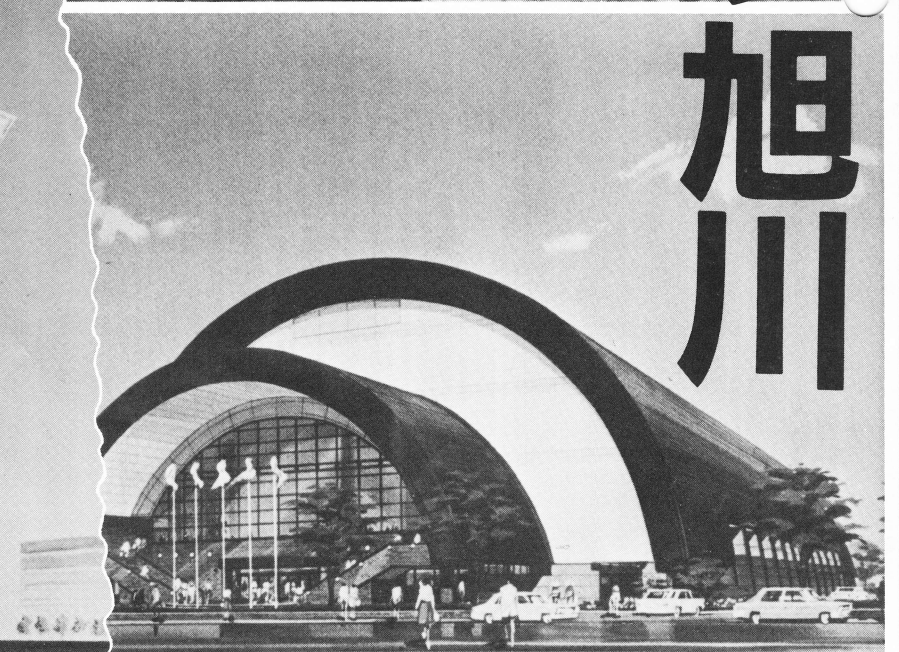
ななかまど

東京旭川会
会報

第 8 号 昭和61年(1986)年2月25日

発行 東京旭川会
東京都新宿区西新宿7-4-3 升本ビル
東京美装興業株式会社内
TEL. (03)363-2721

編集 東京旭川会会報編集委員会

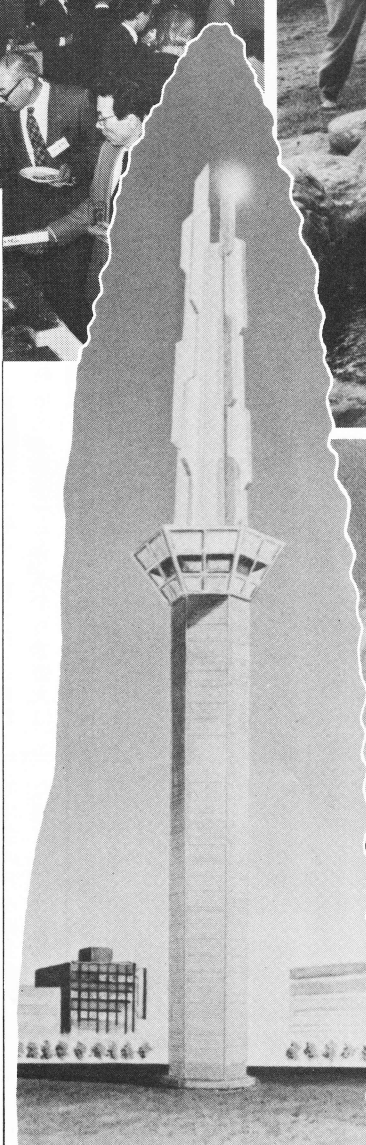
ニューウェイク
旭川

写真上：せせらぎ広場の誕生でチビっ子大喜び。下：多目的アリーナがまもなく完成。左：買物公園に「ロータリータワー」、また一つの名物が。



総会と懇親会九回目を迎えて

旭川会主催の二大アニュアル・イベントである「総会と懇親会」「郷土訪問旅行」は昨年もまた多くの会員の参加のもとで成功裡に終わった。こうした力をさらに貯えて、こんごさらに充実・拡大を図りたいものである。(詳細は2・3面、4面。上の写真は総会での即売コーナー)



ふる里の味に舌づつみ

東京旭川会定期総会



250余名のなつかしい顔顔顔...

第九回東京旭川会の総会および懇親会は昭和六十一年十一月七日、東京都新宿区の京王プラザホテルで盛大に開催された。この日定刻より四時間も早く、午後二時頃から世話役の幹部二十余人が集合し、一切の準備を進めるうち、同五時過ぎから次々と出席者が姿を見せ総会出席者は二百五十四人に達した。午後六時、八木祐四郎副会長の司会で開会、急病で出席出来なくなった平岡敏男会長に代って御手洗正夫副会長が議長となつて議事に入った。

昭和五十九年度事業報告、収支決算報告、六十年年度事業計画と予算(別掲参照)が田村昌士幹事長から読み上げられ、竹原茂雄監事の監査報告が行なわれ、満場一致で承認された。続いて役員改選は平岡会長の再選が承認され(他の役員については後刻別掲のように会長より委嘱された)、ついで矢野正康副会長から六十年十月に実施された第四回郷土訪問旅行について、地元の暖かいもてなしに感謝の意を表明、六十一年には旭川市長選挙の関係もあり、七月二十日頃に実施したいとの報告があり、総会とはとこおりなく終了した。

続いて懇親会は吉田敏明副会長から「立冬ながら雨も上がり暖かい夜に遠来の坂東市長始め皆様方をお迎えすることが出来ました。心おきなくご歓談願います」と挨拶があり、本年も旭川から上京したミス旭川虫谷千恵子さん、岡田文子さんから御手洗正夫、吉田敏明副会長に花束

贈呈、続いて坂東徹旭川市長から「旭川空港のジェット化が一年早まり、医学会にも三千人集り、多くの方に旭川を肌で感じてもらうことが出来た。忠別橋が三十数億円をかけて新しくなり、四カ所に彫刻が飾られている。市では彫刻界でも權威のある中原悌二郎賞を実施している。また、旭川会の八木副会長の提案で実施した旭川バーサー大会は、今年は一万二千五百人の参加があり、一年のスキーの締めくくりとして盛況であった。さらに良い町にしたいと努力しますので、在京の方の力添えをお願いしたい」と挨拶の後、吉田律子常任幹事から坂東市長へ花束が贈呈された。引き続き来賓紹介の後、地元選出の国会議員、上草義輝、五十嵐広三、村上茂利、安井吉典、菅野久光の五氏が壇上に紹介され、懸二郎顧問が乾杯の音頭をとり、万歳三唱のち和やかなパーティーに移った。

各テーブルには盛沢山の山海の珍味のほか、郷里から送られてきたカボチャ、馬鈴薯にバターが添えられ、馴染みの男山、旭高砂で話が弾む光景が見られた。例年人気のある福引抽せん会は武田陽子常任幹事の進行でミス旭川両嬢の手で抽せん、東亜国内航空往復無料券など総数百十五点の豪華な景品に会場が盛り上がった。一年振りにお互いの健在を確かめ、近況や家族のことなど話はつきず、来年も元気で会うことを約して市からのお土産を頂戴し、旭川市議会小沢仁良議長挨拶の後、午後七時五十分、八木副会長の閉会のことばで散会した。

会場の即売コーナーでは旭川地方卸売市場提供の鮭、いくら、たらこ、昆布などの即売会が行なわれ、総売上げは五十八万六千円に上り、この収益は会に納入された。



ミス旭川も上京、花をそえる

第九回総会出席者

◇来賓Ⅱ旭川市長坂東徹、旭川市議会議長小沢仁良、旭川商工会議所副会頭菅原国次郎、旭川観光協会々々長金森耕造、合同酒精社長長野口正二郎、㈱十勝社長大浦二郎、サッポロビール営業推進部内海常吉、東亜国内航空東京支社川口敬一、旭川市助役新出實、同秘書課長松浦常雄、同企業立地室々々長松山輝雄、同企業主査宮本邦夫、窪田勉、旭川市議会议務局長渡辺義明、ミス旭川岡田文子、虫谷千悦子。

◇会員Ⅱ穴口重郎、懸二郎、足立景子、青野茂、有地豪氏、朝倉良三、朝倉洋子、荒品澄子、伊集院寛、板谷峯、伊藤英子、磯部郁子、石橋和子、五十嵐広三、岩村久子、石本チヨ子、板垣ツヤ、伊藤一男、井川正梅原音二、植田キヨ、上田進康、上草義輝、蝦名礼子、大城栄子、折登建憲、押味信子、落合隆明、小川誠、尾上一郎、大久保藤次郎、大石武夫、奥野寛一、尾崎哲、尾崎幸子、大西幸男、大箭義男、太田幸男、大西浅市、折登昭三、尾崎靖亮、奥山三男、大沢輝子、樋谷雪枝、荻野京子、小椋宗長、岡田猛枝、金子登、金子キク、加藤和俊、加藤竹紫、笠原貞夫、亀井敏一、片貝美雄、笠木真知、河村尚之、河村正雄、金津良三、加藤辰雄、改田洋、河端昭雄、加藤千恵子、北川一智、木原俊、窪田稔、黒川仁、桑本平八、桑本幸子、工藤正晴、熊本啓一、黒崎弘、工藤ヤエ子、古瀬猛男、小林正一、小坂佐久馬、後藤正士、鴻上修一、小西栄一、小林光政、小林栄仁、小松山俊介、斉藤忍随、斉藤勝男、斉藤彰子、佐々木浅雄、笹谷亨市、佐々木憲一、榊原潔、佐々木雄一、斉藤貴一郎、斉藤寿子、斉藤登和子、佐藤克二、斉藤弘明、佐々木秀典、茂川トヨ、勝田正之、島田実、塩田二琅、島田嘉

明、渋谷周二、鈴木与之助、鈴木吉之、鈴木和男、須藤智恵子、杉田和子、須藤正一、須貝ツネ彦、菅野久光、関口和子、関口緑、世良保、関口越夫、田中庸夫、田中時子、高橋正夫、竹内薫、田村昌士、武田陽子、竹原茂雄、高橋国二、田村ツマヨ、玉田郁生、高木加代子、高橋芳子、高野哲男、田中義憲、田辺勝、谷口要、土屋初代、土井磨智子、寺田克彦、永井慶子、長田孝雄、中本和子、中本敦子、中村敏江、中村虎男、中村綱子、中野虎雄、長坂廣光、長坂昌子、中井喜代之、西田育子、西本武市、新国園枝、西村明、野瀬ミツエ、野村トシ子、花輪元治、花輪音三、坂東幸子、坂東勝利、坂東宗光、橋本博治、橋本裕子、逸都敏、羽島利雄、長谷川明子、林輝一、林恵子、平野雅甫、広瀬芳一、久居勇雄、広野貴之、原公朗、藤井繁、古島誠一、古島文子、福居秀一、二川武、二川ちえ子、福原博子、深沢幸子、福田一、福田淑子、福居浩一、舟木トヨ、福田淳一、堀江秀明、本間敏弘、堀川和延、堀内勉、榊沢滋、丸山英明、丸山のお子、松永茂、牧田逸子、前木誠、松浦美喜雄、松原利治、正本和代、南栄二、宮下弥生、造酒多津男、三宅一郎、御手洗正夫、三浦英次、三浦智恵子、宮下博夫、三浦規三、三田修一、三井勲、向井地博明、向井地和子、室谷文治、村上康範、村井与吉、村上茂利、村上静子、室谷幸吉、武藤祐子、森あい子、守田節子、森陽一、師橋孝、森喬伸、栗山篤子、栗山孝、山本正純、山田智子、山田玲子、八倉巻等、矢野正康、八木祐四郎、安井吉典、山崎和子、吉田千里、吉田敏明、横川正市、吉田克良、横峯昇、吉田律子、吉田孔一、渡辺信治、和田泰彰、渡辺康司、渡辺フミ子、大矢健郎

(以上来賓と随員十六人、会員と同伴者二百三十八人、合計二百五十四人、敬称略)

第四回郷土訪問旅行に五十四人

第四回郷土訪問旅行は、矢野、八木両副会長を団長、副団長に、一行五十四人が東亜国内航空第一便で十月十四日、旭川に入った。空港には金森観光協会々長、中島助役、ミス旭川ら多数の出迎えを受け、歓迎セレモニー。道北バスで、赤い実をいっぱいつけたナナカマドの並木道を市内観光へ。久しぶりに郷里にきた人初めて旭川を訪れた人、白雪をいただいた大雪の山並みや美しい街の風景、さわやかな空気に感嘆しきり。

例年の通り、高砂台で昼食会。とくに今回は、坂東市長ご夫妻、小沢市議会議長、小松山商工会議所会頭、中島、新出両助役、収入役の各氏に出席していただき、改めて地元の東京旭川会に対する熱い期待をひしひしと感じた。ジンギスカン、ジャガイモ、トウキビ、ワイン等々懐かしい味をかみしめ、松浦秘書課長はじめ多数の市職員の方々のおもてなしを



旭川空港でミス旭川から歓迎の花束を受ける矢野正康団長

受けた後、旭川駅前解散。旭商同期会に出席する矢野、中山、折登氏ら、お墓参りをしたい大城さん、百歳になるご母堂に孝養をされる亀井さん等々、それぞれの計画に従って出かけて行く。国際ロータリーの企画「道東の旅」には、旭川会の藤井繁さんの社員旅行一行も含めて、二十人参加。層雲峡、美幌峠、摩周湖、阿寒湖、十勝川の鮭漁等々、紅葉の美しい道東の旅を満喫。とくにバスの中では、沿岸バスの名ガイドさん

と我が武田陽子女史との掛け合いに爆笑また爆笑。夜の宴会も藤井さん、本間さんらの差し入れもあり、カラオケも絶好調、天候にも恵まれ、参加者一同大満足。今回の旅行も、事前には東京事務所長の長田、須貝お二人の周到な根回し、坂東市長はじめ地元各方面のご配慮に心からお礼を申し上げる。最後に、今回の旅行に参加した役員は、矢野、八木両副会長のほか、大城副会長、桑本、花輪、本間、武田、原、武原、落合各常任幹事である。

ナナカマドの真赤な実...

高橋澄子

待ちに待った北海道旅行の出発日、十月十四日、小雨降る羽田空港から旭川に向け旅立ちました。初めて旭川、寒いだろうと着替えを沢山持つて出かけた。旭川空港に着き温度が九度Cという。さすがに風が冷たいが、澄んだ空気がとてもすがすがしく感じました。旭川市の方々の心温まるおもてなし、旭川市をバスで見学、昼食は高砂台でのジンギスカンと旭川の味に舌鼓をうち、充分にいただいて参りました。旭川の



高砂台レストハウスの歓迎昼食会。坂東市長(左)を囲んで。

街のナナカマドが真赤な実をつけ目を楽しませてくれました。

翌日から二泊三日の道東の旅に参加させていただきました。天気に恵まれ、一段と美しい自然の広大な姿を目の前に、日本一の柱状節理の絶壁をもつ層雲峡を眺め、ガイドさんの説明に、目を左右に動かしては感嘆の声をあげておりました。東京では味わえない美味しい食べ物、また珍しい食べ物もいただきました。道路の両側には白樺林、ナナカマド、山ブドウの紅葉と自然の山々のかし出し出す色のコントラストの美しさに本当に心洗われる思いがいたしました。オホーツク海の色の美しいこと、流水の季節にもう一度旅をと思いました。網走湖畔の宿では皆様との楽しい夕食の一時、その後のカラオケ大会では賑やかな歌声を聞きながら打ちとけ合い親密感がますます深まりました。阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖、それぞれ趣の違う湖も、抜け

美しきで、カメラで写すのに忙しい一時でした。最後にお世話下さいました幹事の方々に、厚く御礼申し上げます。

第四回郷土訪問団

蝦名礼子、藤井繁、藤井照代、石上雄司、小林正蔵、菅原寿、福本初子、岡本記子、工藤ヤエコ、土井ちい子、荻野京子、鴻上修一、鈴木与之助、高橋澄子、福沢富美恵、武田和子、武田陽子、熊木恵子、落合隆明、落合サヨ子、落合久子、板倉蔵、板倉チズ子、大和田はつ代、中原健、中原幸子、矢野正康、福原博子、中山精二、世良保、世良節子、天野つぎ子、富沢米子、大城栄子、土井磨智子、川口美智子、折登建憲、亀井欽一、石井美代、徳永好子、大橋優枝、原ミキアキ、花輪元治、野沢順子、竹下朝一、竹下タミ、桑本平八、伊藤英子、新倉千代、本間敏弘、本間文子、竹原茂雄、八木祐四郎、阿藤葉子

戦後四十年間、病氣治療のため入院したことはないのを、すこしひけらかしたこともあった。しかし天の配剤はまことにフェアというべきか。昨年十一月七日、旭川会総会の当日日本医大付属第一病院に入院し腸の疾患を手術してもらった。経過良好ということで、十二月二十三日、退院できた。ただ、その後の調子は必ずしも好調といえないので、皆さんには、失礼を続けている。

入院中、旭川会の幹部役員のお見舞をうけ、また坂東市長さんは、上京中公務多忙の折にもかかわらず、わざわざご来院、見舞激励のおことばを下された。いずれも恐縮し、ありがたいことと存じている。私の近況は右のような次第であるが、旭川会は副会長、幹事、事務局長の皆さんの無私のご努力によって、イベントも充実し、組織も堅実になっている。

昭和六、七年の頃と思うが、私は旭川実科高女校に勤務していた。学校は四条十二丁目で竹村病院と背中合わせになっていた。

或日、仲通りの角に排水溝のドブ材を山のように積まれてしまった。教室の外側で眺めも悪いばかりでなく衛生上も甚だ思わしくない。

そこで係の先生が市役所へ撤去方を交渉に行った。帰ってからの話では、係は言を左右して要領を得ないという。まだ血の気の多かった私は「よし、俺が行って来る」と市役所へ行き市長（当時は奥田千春氏）に談判しようとしたが生憎「不在」の札がかかっていた。ではと、助役迎面会を求め、助役室にはいつて行つ

思い出の御手洗助役――小池栄寿

た。時の助役は御手洗氏であつた。
（失礼ながらお名前は思い出せない）
御手洗助役には、一面識もなかつた
ので、どんな人か全く知らなかつた。

しまなかつた実戸馨さん、このおふたりの副会長のご功績を、思いおこすこと、とくに私にとっては、いよいよ切なるものがある。これは、私ひとりの感慨ではあるまい。

旭川会は、旭川市周辺をふるさとにもつ人々、旭川をこよなく愛し、旭川市の発展を純粹に希念するひと

る。これは、会員の皆さんの協力
のたまものでもある。

そしてことは、この会が生まれ
てから、十年になる。この会のため
の起動力として、事実上、主宰的役
割をはたしてくれた谷武雄さん、ま
た大所高所から会の発展に支援をお

民主的な選挙を通じて当選したかたがたは、フェアに受けいれるのを建前としている。これは会員の個人的親疎、好悪とは全然別である。孔子のいう淡々たる君子の交とでもいうべきであろうか。

旭川が、NHKテレビをはじめ、なにかの折に大きくとりあげられ、

びとの親睦的団体としてスタートした。政治的には、まったくノンポリティカルである。ということは、旭川会としては、各種選挙等の場合に一個人としては別であるが―特定の候補者を支持激励することは極力避けることを原則としている。しかし

かたがたが、十年を記念するイベントを考えて下さっている。たのしい話である。それは同時に、旭川会の会員が、貴重な存在感を肌を通じて感触することでもあるのだ。十年というのは、目には見えない大事な積みかさねである。

（毎日新聞社会長・題字筆者）

全国に紹介される頻度は近年、目をみてもものがある。と同時に、日ごろの接触を通じて、旭川出身者、関係者が実に多いことを、しばしば知らされる。そういうかたがたに、東京旭川会は当然門戸を開いているが私どもとしては焦らず、急がず、着実に地歩を固めていくのが大切であると考ええる。

が多いから、あのような厳正で速戦即決型の人は出世しないのかも知れない。市長にもならなかったようだから。

さて旭川会で、副会長になられた御手洗正夫氏は、あの助役さんの令息ではあるまいかと長い間、ひそかに考えていたが、昨年の旭川会で、

ふと顔を合わせたのでお聞きすると果して御手洗助役の令息であられた私は多年心に抱いていた、御手洗助役さんへの感謝を令息に申し上げて、ただ一度きりお会いしたただが、あの凜とした人格と手腕に敬服していることを話し、私の生涯でお会いした名士の中で最も忘れ難い方であり、ご立派な方であったと、助役さんに申し上げられなかった百万言を、酔にまかせて、令息正夫氏にくどくどと繰り返し、お父上への賞讃と感謝を述べたのであった。


 〒 4 7 9
 会 長
 平 岡 敏 男
 4 7 9
 2 1
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



助役室にはいると、厳然と椅子に坐つてゐる助役は古武士のような凜として犯すべからざる威厳を持つて居られた。

その風貌に接すると、意気込んで

が、この助役さんのように、即決即断、直ちに実行に移すような上司にも役人にも会ったことがなかった。御手洗助役のその後は知らない。役人という者は、あいまい模糊の人

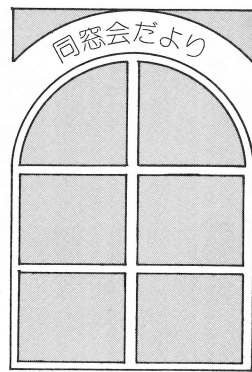
と念を押すと、「すぐやります」と言われる。「よろしく願います」と私は一礼して引きあげるしかなかった。ところが、学校へ帰つてしばらくすると、もう馬車が来て、ドブ材を積み始め、夕方までに全部取り除いてしまった。

▽緑蔭会（北都・旭川市立高女）
同窓会東京支部 昭和六十一年四月
二十七日（日）受付十一時半から。会場
は懐石料理の「つきぎ田村」（中央区
築地二―二十一）電〇三（五四
一）二五九一。連絡先 昭和二

△旭川商業同窓会東京支部總會
昭和六十一年三月七日(金)午後六時
から。会場は茗溪会館(文京区大塚
一―五―一二)地下鉄丸の内線茗荷
谷駅より徒歩二分、電〇三(九四三
〇三二)。連絡先は日本鋳業・高久
保 電〇三(五八二)二二一一

▽旭川東高（旭中）東京支部総会
 昭和六十一年三月十日、午後六時
 から。会場は東京ヒルトンインター
 ナショナル（新宿区新宿六―六―二
 連絡先は東京美装興業・桑本 電〇
 三（三六三）二七二一

▽桜花会（旭川高女同窓会） 昭
和六十一年十一月七日（金）正午から、
会場は東京大飯店（新宿区新宿五丁
目一七一—三）電〇三（二〇二）〇
一一二、連絡先は東久留米市滝山五
丁目二六一八、山本恭子（海江田）
電〇四二四（七三）四六七三





ニュース提供：
旭川市東京事務所

中小企業大旭川校舎

昭和五十九年から建設工事が進められていた中小企業大学旭川校舎（長尾照正校長）の校舎が完成し、昨年十月三十日完工式が行なわれました。

旭川校は東京校、関西校、直方校（福岡県）に次ぐ四番目の大学校です。旭川市西神楽四線五号（旭川医科大学隣接）に約一万九千平方メートルの敷地を有し、鉄筋コンクリート二階建て、延べ約七千平方メートルの立派な校舎です。

宿泊施設、研修施設などのほか、本道の地域性から他校にはない屋内体育館も併設されています。中小企業人材育成を目的とした大学のカリキュラムは、新製品開発、中小製造業の市場開拓、情報化への対応など、本道の中小企業に即した研修内容で、本年四月二十三日の開校を待っており、各方面から期待を集めています。

ロータリータワー

買物公園から旭橋に抜けるロータリー（八条七丁目）に完成した、この「常盤ロータリータワー」は、六十年十月から、旭川市と旭川開発建設部が約六千七百万円をかけ、工事が進められていたもので、十二月二十四日（クリスマスの日）点灯式が行われました。

下部二十メートルの照明塔が道路を照らし、上部十五メートルのタワーは、旭川の自然を象徴する「雪中と氷柱」がたどられ、天にそそり立つ姿は旭川の「発展と躍進・躍動」が表現されています。

小雪の降るクリスマススイブに、十二基のナトリウムランプの柔らかな光が銀色のタワーを照らし、イブのムードを一段と盛り上げたこのタワー……。

せせらぎ広場憩の場

「川のまち旭川」にふさわしい「せせらぎ広場」の誕生と忠別橋（彫刻）が生まれ変わりました。

川に親しんでいただこうと、金星町一丁目（市立病院裏の牛朱別川広場）に約一千万円の費用で、九月二十日に「せせらぎ広場」が完成し、通水式が行なわれました。

この広場にはボラ、アカシアな

どの木立を配し、この間を流れる人工の小川は、石狩川本流の水をポンプでくみ上げるもので幅一・五米、全長百五米で、流れの中央には池、周囲には散歩道が設けられており、市民の憩いの場として親しまれています。

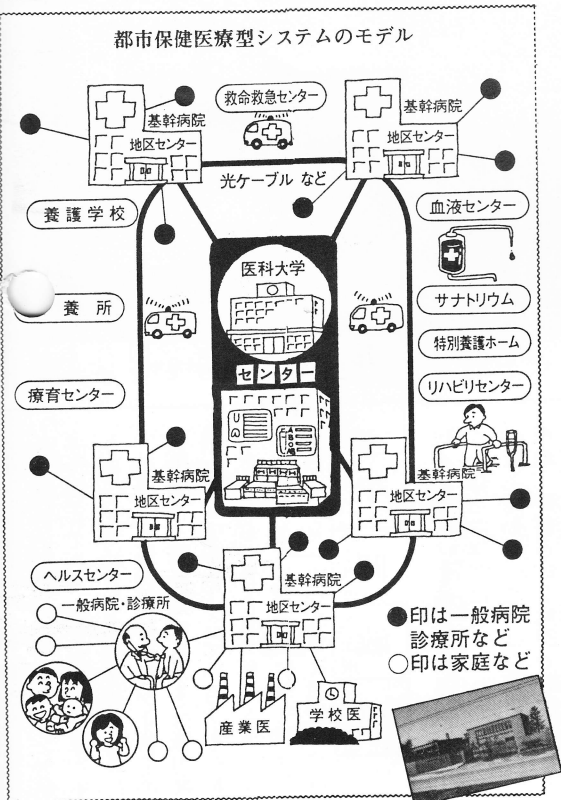
忠別橋お化粧直し

忠別川に架かる、市の中心部と神楽地区を結ぶ忠別橋の架け替工事が進められ、昨年の十月見事な橋に生まれ変わりました。

これまで片側一車線が二車線に拡張され、いま進められている両神橋の拡張工事が完成しますと、市中部と神楽、神居を結ぶ道路は、旭川市内で、二といわれる交通渋滞地域から緩和されることとなります。

忠別橋の両歩道わきには、四カ所の半円型バルコニーが設けられ、そこに芸術性の高い四基の彫刻が設置され、橋の上のギャラリーとなっています。

また、両岸の橋詰めには、噴水、



中小企業大学校校舎

多目的アリーナ完成

冬はアイスリンクを常設し、アイスホッケーやフィギュアスケートなどの氷上スポーツに、夏は床バレーを布設して、各種スポーツ、大規模な集会や展示会など幅広く利用できる（仮称）多目的アリーナの建設工事がいま急ピッチで進められています。

神楽四線六・七丁目の約二万二千平方メートルの敷地に、総工費約二十五億円をかけ、鉄筋コンクリート二階建て、延べ床面積九千四百七十九平方メートル、一万人が収容できる規模のアリーナで、東京都にありまます東伏見アイスアリーナの二倍以上の規模を持つっており、本年十月に完成する予定です。すでに本年の全国PTA大会がこの会場で開催が決定しており（八月二十二日、二十三日）、各種イベントが数多く開催されることにより、地域の活性化につながるものと、この完成に大きな期待が寄せられています。

市民栄誉賞第一号

昭和六十年九月に制定された旭川市民栄誉賞は、市民または市に縁の深い個人、団体に広く市民に敬愛され、市民に明るい希望を与えた業績に対し、市長から贈られる賞です。この賞の第一号は、現在、囲碁界で活躍をされている小林光一さん

に贈られることになり、六十年十二月二十九日の表彰式が行なわれました。小林さんは昭和二十七年九月十日永山町二丁目に生れ、同四十年に碁界に入られました。今は、第二十二期十段位、第十期名人位、第十一期天元位と囲碁界七大タイトルのうち三冠王に輝いています。四冠王を目指し期星戦のタイトルに挑戦しており栄冠が期待されています。

ニューメディアの波

旭川市は、昨年八月二十六日のニューメディア・コミュニケーション構想二十四類型のうち、都市保健医療型のモデル地域として指定を受けました。これは、全国三十三カ所の候補地域のうち七地域のみという厳しい難関を通過して指定されたもので、来たるべき高度情報化社会に対する市としての本格的な取り組みといえるものです。

今回旭川市が指定された都市保健医療型のはかにも、研究・学園都市型、都市再開発型、テクノポリス型などいろいろな型がありますが、旭川市では、市民の生命、健康を守ることは、すべての都市活動の基盤となるものであると考え、この型を最優先させたものです。

また、旭川市の保健と医療に関する機能集積は、他の地域に比べて高く、これらをニューメディアを使ってネットワーク化することにより、大きな効果が期待できます。

さらに、市ではこの型を手始めとして、産業経済、教育文化、市民生活、行政など、いろいろな分野にも拡大し、市民生活がより便利で快適になるような、ニューメディアによるシステムづくりを進めていこうと考えています。

「踊る馬鹿、踊らぬ馬鹿や、石井馬鹿」とこの好きな言葉は、いまも私の脳裏から離れません。亡き洋舞会の大元老、石井漢師の言葉です。生きていくという事は、踊らせられるか踊らずか、踊っているのかみているのかと云う意味で、どの職業にも通じるのではないかと、私なりに思い信じ、今日までただ一筋に踊って生きてまいりました。旭川の国鉄職員を父に持った私は、青雲小学校に学び、旭川市立高女を経て、やがて当時の国民学校の教師となり、大有国民学校へ赴任して間もなく、宮下通りの鉄道官舎の八畳間で、踊りを教え始めておりました。その時、父は私の行動に対して、面白くなさそう顔をしておりましたが、私は、どうしても踊りは続けたい気持ちが強く、父を初め家族には申分けないと思いつつ、踊りを断ち切ることが出来ないうで、とうとう共立女子高の講師を最後に、踊りの指導を依頼されるままに、釧路、帯広、池田、旭川と十数カ所を、踊り、踊り、踊りで、汽車、バスとあけくれ、踊りの旅が始まりました。その間、釧路沖地震を雄別線の阿寒駅で体験し、鉄路の側近く地割れがポツカリ大きく開いて、天災の恐ろしさを、まざまざと見せつけられたのも、踊りを通しての思い出の一つです。

あれから三十年経った現在は、市内の青少年指導にも定期的に列車で通うようになり、その他韓国の招待舞踊、国内での各地での発表会、有名芸能人の舞台観賞、研修等平均月一回の空の旅、取材旅行は、思いつくまま同じ道を行ったり帰ったりの一入旅、または生徒達との賑々しい旅は、いつも楽しく、創作舞踊を通して、各業界の人達の温かいふれあい等々、あきることなく日夜、創作舞

人生は踊り



おどりが生命

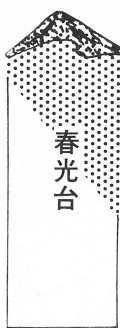
板谷友恵

踊に打込める私は、実に幸福であると思っております。そして創作舞踊家として、その曲、曲によって音楽のリズムの流れに乗って、体、全体で如何に表現するかの、その振りの間にかそれのとりこになつてしまっています。無我夢中で時間の経つのも忘れて、ひとり踊ってまいります。その瞬間が、私自身に、一番忠実な時ではないかと思つたりいたします。一つの踊りの創作が完成して愛弟子達に指導してゆく楽しさも、また格

昭和六十年四月「日東丸」が北の海で遭難した折、乗組員九人のうち奇跡的に三人生還された記事が新聞その他で報道されましたが、早速創作舞踊に採用「漂流」と題して、その秋の十一月三十日札幌教育文化会館で発表もいたしました。私にとって踊りが生命、人生は踊りといえるのではないのでしょうか。そんなこんなで踊って暮しておりました昭和五十九年には、地方文化に貢献したという事で栄誉ある北海道文化奨励賞をいただきました。受賞記念祝賀会を板谷モダンバレエ後援会および父兄会主催で旭川駅前旭川ターミナルホテル六階溪雲の間にて、多数の皆さまに祝つていただくなど、身に余る光栄で感謝感激いたしております。これも青雲小学校に学んでいた頃、「小さな芽の会」で指導していただきました恩師、中原龍昇先生（現在八十歳で十勝バレエ協会名誉会長のご熱心なご指導があったればこそ今日の私があるのだと深く感謝いたしております。また北海道文化奨励賞受賞の折も中原龍昇先生から、温かいお祝いのお言葉もいただきました。その上舞踊の先輩である関口和子さんは、青雲小学校、旭川市立高女も先輩で、毎年の舞踊発表会、今回の受賞に、心から喜んで下さり、その度に祝電を寄せて下さつてうれしく思っております。私は六歳から踊り始めて現在還暦を迎えましたので、そろそろこれからは舞台で踊るのは一応やめようかと思っております。けつして踊りをやめるのではなく受賞したこともあり、これから益々舞踊ファンの皆さまのご期待に添えるようただただ一所懸命創作舞踊の芸術高揚と次代を背負う若人達の育成に、全力をそそぐつもりであります。（板谷モダンバレエ研究所主宰）

旭川の中心部にあった中央小学校の名が地上から消えて何年になろうか。いま旭川は新しい文化を北欧に求めて、昭和の町おこしをしていくが明治以来、続いた旭川最古の小学校、中央の名を何故のちの世まで残す文化努力をしなかつたのか。人口のドーナツ化で中央校は廃校に追いつかれて、その名は消えたのだが、せめてこの校名だけは残すべきであつたらう。中央校出身の私は、母校をこんなに冷たく扱われて、ふるさと旭川に愛情を——といわれても肯けない。地名とか施設の名称は、ふたつの歳月の文化を背負っている。自らの文化を捨てて、何の北方文化ぞ。

回想の中央小学校



春光台

むかし、駅から師団通りを歩いて二条通り、マルカツの左側に吉竹酒店があった。飲食店、割烹の多い地域だった。東京の青山に「よしたけ」という郷土料理の店が出来たと聞いて、行つて見たら、やはり旭川の吉竹の酒店で、五十九年九月にオープンしたという。青山通りに面した住友ビルの地下食堂街にあり、黒と白のシックなインテリアで店内をまとめ、優良良織の作品が数点飾られているなど落ちついた雰囲気をもたせられる洒落た店。十二、三人の団体も可能な和室もある。



メニューのなかで好評なのは、かに料理大名コース 六、〇〇〇円
同 旗本コース 四、五〇〇円
帆立のベーコン巻きバター焼き 一、五〇〇円
一、五〇〇円
一、五〇〇円
はまなす寿し(ルイベ) 一、二〇〇円
石狩鍋 二、〇〇〇円
ニシン漬 六〇〇円
材料は毎日空輸で現地から取り寄せている。ニシン漬は氷ごとガチガチと食べた旭川のお味の思い出させる。酒は旭川産がずらり、ワインも富良野、十勝など。ランチタイムは日替りメニューでA、B、C三種で各七〇〇円。
店主は吉竹北子さんで旭川出身、(旭川会会員)、日曜休み。港区南青山三一一三〇・住友生命ビルB1F、電〇三三四〇五・〇四四一。

もう一度、開拓史の時代から洗い直して地場の文化に光を当てていただきたい。(村井孝夫・東京都新宿区・ジャーナリスト)

編集室から 今号から投書欄「春光台」を新設します。応募規定①字数は四百字②ふるさと旭川に関する内容③紙上匿名、ペンネームも可、但し住所氏名を明記して下さい④投稿は一切返却しません⑤宛先は〒171東京都豊島区長崎五十一―三―一八〇四、南栄二方「な、かまど」編集室。

八木副会長に藍綬褒章
八木祐四郎副会長(東京美装業社長)は永年の環境衛生の向上に寄与すること極めて顕著であることを認められ、昭和六十年秋、藍綬褒章を授与された。

事務局日誌

(59・9・1、60・8・31)

▽9・21 第一回幹事会▽10・4 旭川市東京事務所所長来局(事務連絡)
▽10・20 吉田副会長(母堂)逝去▽
10・22 会長に田村幹事長会務報告▽
10・24 販売係(落合・花輪・広瀬各
常任幹事、竹原監事)来局(事務打合)
▽10・29 総会・懇親会各係責任者打
合せ会議▽11・5 御手洗副会長来局
(事務連絡)▽11・6 広瀬・南常任
幹事来局(事務打合)▽11・8 第八
回総会並懇親会(京王プラザホテル)
▽11・27 第二回幹事会▽12・3 名
譽顧問委嘱状送付▽60・1・8 長田
旭川市東京事務所々々長来局(新年挨拶)
▽1・9 御手洗副会長宅類焼▽1・
25 北海道ふさと会連合会新年交礼
会▽2・7 幹事会懇親会▽4・1 橋
詰敏殿(即売会)協力、橋詰商店々々
(主)急逝▽4・8 柴山顧問(母堂)こ
逝去▽4・20 北海道ふさと会連合
会総会▽4・24 第三回幹事会▽5・
2 旭川市東京事務所北邑副所長来局
(市商工部転任挨拶)▽5・8 旭川
市東京事務所須貝副所長来局(着任挨
拶)▽5・29 広瀬常任幹事来局(事
務連絡)▽6・4 総務部会・行支部
会会議▽6・7 第四回幹事会▽6・
11 広瀬常任幹事来局(事務打合) 11
6・26 レクリエーション部会ゴルフ
会▽7・2 総務部会(会員名簿校正)
▽8・12 会長に田村幹事長、落合常
任幹事会務報告

ご寄贈、ご協賛
ありがとうございます

(五十音順敬称略)

旭川市長、旭川市議会議長、旭川商
工会議所会頭、旭川観光協会々々長、
旭川地方卸売市場(株)、男山(株)、川田
正則、薬日本堂(株)、栗田工業(株)、
鴻池組、合同酒精(株)、五建工業(株)

昭和五十九年度収支決算

昭和六十年八月三十一日現在

(収入の部)

繰入金 九三、六四〇円
年会費 七六〇、〇〇〇円
五十八年度懇親会費

(支出の部)

名簿売上代金 二、七〇〇、三五〇円
寄付金 七、五〇〇円
雑収入 四二〇、〇〇〇円
合計 四〇、九八八円
四、〇二二、四七八円

(支出の部)

懇親会費 二、六六八、五四〇円
印刷費 三九九、一九〇円
通信費 一四一、〇〇〇円
会議費 九〇、二四〇円
交際費 三五、二〇〇円
事務費 八、六六〇円
手数料 一六、一〇〇円
支出計 三、三五八、九三〇円
繰越金 六六三、五四八円
合計 四、〇二二、四七八円

昭和六十年八月三十一日

東京旭川会会長 平岡 敏男
幹事長 田村 昌士
以上上の会計事項について監査の結果、
適正に処理されているものと認めます。
昭和六十年九月十日

監事

竹原 茂雄
黒崎 弘

東京旭川会役員

会長 平岡敏男
副会長 御手洗正夫、吉田敏明、矢野

サッポロビール(株)、昭和実業(株)、昭
和工業、(株)セーキ、高砂酒造(株)、第
一梅屋、(株)大心堂、(株)十勝、東京美
装興業(株)、東亜国内航空(株)、ニッカ
ウイスキー(株)、藤原製麵(株)、藤井商
事(株)、御手洗正夫、村上茂利、安井
吉典、雪印乳業(株)、巨人スタルヒン
会、毎日新聞社、大城印刷(株)、(株)ア
ロセス・アーキテクチャ

正康、八木祐四郎、松原利治、大城栄
子、牧田逸子
幹事長 田村昌士
常任幹事 落合隆明、折登建憲、河端
昭雄、桑本平八、須貝ツネ彦、須藤智恵
子、武田陽子、高野哲男、長田孝雄、
長坂広光、西田育子、花輪元治、原公
朗、広瀬芳一、福原博子、堀川和延、
本間敏弘、南榮二、吉田律子
幹事 伊藤英子、植木宏昌、大石武夫、
大久保藤次郎、大西幸男、大矢健、奥
野寛一、加藤辰雄、河端敏博、須藤正
一、鈴木とよこ、高木加代子、土屋初
代、羽島利雄、橋本裕子、向井地和子、
矢木茂昭、横田茂
監事 黒崎弘、竹原茂雄
事務局長(兼) 桑本平八

●会員消息

▽住所・勤務先変更 小樽山俊介、
〒167 杉並区下井草二一五二
〇二〇。関谷赴夫、〒246 横浜市瀬谷
町沢二一五二。中村猛 日本電
装機器常任監査役。
▽転居先不明 高橋丈男、日置利保、
福家清市、山城弘康。
▽退会 河野純子、越文子、林雅子、
乳井啓子、富岡裕行。
●新入会員紹介
木幡功 板橋区成増五一七五 電 〇
三(九三八)七七二八、富士アドシス
テム常務取締役 電 〇三(二六五)二
五三一
高木加代子 新宿区西早稲田一一一六
一五 電 〇三(二〇八)三九三五、
三友プリント 電 〇三(二一一)六九
三二
橋本裕子 杉並区荻窪一一五〇一二〇
電 〇三(三九一)四二五二
正木和代 流山市向小金新田五三一二
三 電 〇四七一(七二)六〇六一
小椋宗長、加藤千恵子、工藤正明、菅
野久光、寺田克彦、豊島恒、福田淳一
の七氏は至急現住所、電話を事務局へ
お知らせ下さい。

◎会員名簿訂正(昭和六十年秋の総会
で配布)カッコ内は誤り
○氏名
重野哲寛(寛)、関谷(口)赴夫、森あい
(愛子)、古島(島)誠一、大井みや子(俊
雄)(勤務先及び同電話番号は削除)
○出身校
谷トヨ子 青雲(西神楽)
○現住所
野村トシ子 下井草(下高井戸)
岩村久子 東葛飾郡沼南町(葛飾郡沼
南)
○勤務先
堀江秀明 三和器材(株) 電 〇三(五六
一)二七七二
関谷赴夫 勤務先削除
○広告
千代田企業株式会社(住所)東京都新
宿区本村町三一(本村町三五番地)
五建工業株式会社(役職)取締役相談
役 吉田敏明(取締役相談役)
都(住所)中野区中野三三三五一八
(中野区三三三五一八)
竹原茂雄 電話 〇三(五四三)三五〇
五、(五三四)
黒崎 弘 電話 〇三(六九〇)九四三
六、(六一〇)
▽お悔み
馬淵憲三殿(五八・五・一〇)
大井俊雄殿(六〇・二)
久我幸雄殿(六〇・六・一一)
山本隆康殿(六〇・九・二五)

編集後記

▽市から毎月広報誌が送られて来る。
このなかで一つ気にかかる数字がある。
人口統計である。旭川を離れて本州を
転々と暮らすうち、故郷がいつの間に
か三十万都市になったと驚くとともに、
市の発展を喜んだものだが、このこと
ろ三十六万台で増減しており、人口
増が停滞しているようだ。
▽病床の会長から今号も原稿をいただ
いた。早くもと通り元気になってご活
躍されるようお願いしたい。会長の随

想にもあるように旭川出身者の活躍が
しばしば報ぜられる。劇団四季の野村
玲子さんが「キャッツ」の公演等で活
躍を報ぜられたが、先日小林光一さん
が第十期開基名人の座についた。旭
川出身の若い人が多方面に活躍する姿
は、まことにうれしいものである(M)
▽総会に続くパーティで今年もカボチ
ヤとゴシヨイモのゆでたのが出た。米
国のゴシヨイモの産地、アイダホ州で
は毎年、日本から新聞記者を招待して
ポテト産業を視察してもらっている。
ゴシヨイモでは国内PRのしようもな
いが、やはり旭川の良さを広く知らせ
ることが先決。セールズポイントは何
なのか、十二分に考えていただきたい。
▽ミス旭川へのアンケート。自慢にす
るものがあるのかないのか」としつ
こく訊ねたが、胸を張って「ある」と
はおっしゃらなかった。作家の三浦綾
子さんに旭川の紹介をかいた小説を書
いていただくか、演歌の作詞家に、旭
川でもうたいこんでいただくのも一つ
の手。倉本聡の紹介で富良野が一躍、
脚光を浴びた例もある。問題はそれの
とフォロワーがあるかないかである。

▽近頃、旭川名物というラーメンが目
につくが、これは産業とはなり得まい。
そば、うどんの類は日本の津々浦々に
あり、それぞれ味を競っている。この
麺類乱世の中で旭川ラーメンがどこま
で戦えるのか。やはりラーメンには限
界がある。手つとり早いPRは食べ物
を通してであるが、カボチャ、ポテト、
ラーメン以外何があるのだろう。旭川
の住民あげてのシンポジウム「あさひ
かわ」でもやろうか。
▽旭川のシバレもひどいが、東京の北
風もきつい。風邪など引かぬよう。会
長の一文にもある通り一九八六年は創
立十周年である。記念になるイベント
をお願いしたい。(I)
▽編集委員 南榮二、田村昌士、落合
隆明、関口和子、笠木真知、伊藤一男
(順不同)